

【科目名】 作業療法評価学総論		【担当教員】 田中 善信
【授業区分】 専門分野	【授業コード】 4-22-0820-0-1	(メールアドレス) y.tanaka@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 1 年次後期	【選択必修】 必修	(オフィスアワー)
【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ	【木曜日】 13 : 00 ~ 18 : 00
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義及び、小グループ編成によるディスカッションを行いながら授業を進める。</li> </ul> (受講のルールに関わる情報・予備知識) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、各分野の作業療法評価学を学ぶ上での基礎となる科目である。</li> <li>・ 講義で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーしてもらうこと。</li> <li>・ 講義中の板書、スライドの携帯電話での撮影は禁止する。</li> </ul>		
<b>【講義概要】</b> (目的) 作業療法評価は、適切な治療方針のために必要不可欠なものである。正確且つ適切な「評価」の視点に立って、作業療法評価学を学ぶが、単に機能形態障害の測定技術を学ぶだけではなく、その障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めて学修することを目的とする。 (方法) 教科書と配布資料などで各疾患の作業療法評価の目的、方法について理解できる講義を行う。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 作業療法評価の概要を理解する <b>【行動目標(SBO)】</b> 障害別の評価方法を簡単にまとめる。 評価から結果までの流れを知る。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢谷令子「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版」医学書院 2011年</li> <li>・ 適宜資料を配布する</li> </ul>		
<b>【参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 齋藤佑樹「作業で語る事例報告：作業療法レジメの書きかた・考えかた」医学書院 2014年</li> <li>・ 日本作業療法士協会 「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」医歯薬出版 2015年</li> <li>・ 吉川ひろみ 「作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド」医学書院 2008年</li> </ul>		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。</li> </ul>		

平成 26～28 年度入学者用

<ul style="list-style-type: none"> <li>成績評価は、期末試験およびレポート点・小テストにより総合的に評価する。</li> <li>小テストの内容は前回の講義の内容について出題し、毎回実施する。</li> </ul>									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	15	15					100 点
評価指標	取り込む力・知識	50	10	5					65
	思考・推論・創造の力	20	5	10					35
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容			授業の運営方法		学修課題(予習・復習)			時間(分)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>コースオリエンテーション</li> <li>作業療法評価とはなにか</li> <li>作業療法評価の対象と過程について</li> </ul>			講義		教科書 (p6-39) を読んでおくこと。 《小テスト (予習)》 作業療法評価の概要やプロセスについて出題する。			30
2	作業療法評価の項目ととらえ方① (国際生活機能分類(ICF)について)			講義		事前に資料を配布する。熟読し、内容を理解した上で出席すること。 《小テスト (予習)》 ICF の内容について出題する。			30
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法評価の項目ととらえ方②</li> <li>(生活行為向上マネジメント(MTDLP)について)</li> </ul>			講義・演習		日本作業療法士協会の HP から関連する資料を集め、熟読しておく。 《小テスト (予習)》 MTDLP の概要について出題する。			30
4	面接の概要と演習 (COPM・ADOC)			講義・演習		教科書 (p45-55) を読んでおくこと。 【参考書】 COPM・AMPS スターティングガイド (p2-45) を読んでおくこと 理解は深まる。 《小テスト (予習)》 面接の概要などについて出題する。			30
5	観察の概要と記録方法および演習			講義・演習		教科書 (p55-61) を読んでおくこと。 《小テスト (予習)》 観察の概要などについて出題する。			30
6	ADL の観察の視点 (AMPS)			講義・演習		日本 AMPS 研究会の HP から概要・項目について説明されたスライド資料 (PDF) を入手し、持参すること。 【参考書】 COPM・AMPS スターティングガイド (p48-91) を読んでおくこと 理解は深まる。			30
7	コミュニケーションと交流技能評価・興味・役割の評価			講義・演習		教科書 (p276-310) を読んでおくこと。			30
8	領域別の評価方法(発表)			演習・発表		以下の評価項目について、【概要】【評価方法の意義と目的】【評価に必要な基礎知識】【測定方法】 【記録方法】			30

平成 26～28 年度入学者用

			をグループでまとめ、パワーポイントにて発表する。 《評価項目》 ①意識・バイタルサインの測定、②形態計測、③関節可動域検査、④筋力検査、⑤知覚検査、⑥反射検査、⑦姿勢反射検査、⑧筋緊張検査、⑨協調性検査、⑩脳神経検査	
--	--	--	--	--

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。